

(様式3)

## 自己評価票

作成日 平成26年12月1日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892500034		
法人名	医療法人 博仁会		
事業所名	フロイデ総合在宅サポートセンター山方	ユニット名	
所在地	〒319-3111 茨城県常陸大宮市山方1361		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2011_021_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892500034-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2011_021_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892500034-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年3月18日	評価機関 決 済 日	平成26年8月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体の医療機関との連携、同法人内でのネットワークの広さ、柔軟に対応できるサービスの種類の多さに力を入れております。
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は国道沿いに面した場所に立置し、元店舗兼住居としていた建物を再活用しているほか、広い駐車場跡地には利用者に限らず地域住民にも歩行訓練などで利用ができるような施設を整備するなど、地域に開かれた事業所づくりをしている。</p> <p>利用者は併設する通所介護事業所のリハビリ器具を利用し、専門職である理学療法士の支援のもと、機能向上のための運動に取り組むことができる。</p> <p>職員は家庭的な雰囲気大切にしながら日々利用者に関わっているほか、自宅での訪問サービスを通じて更に利用者との関係を深めることができると実感しながら利用者を支援している。</p> <p>管理者は法人本部と日々インターネットを活用してメール等で情報の共有を図っているほか、困りごとや相談等も報告しながら、利用者へのサービス提供の改善や職員の働きやすい職場環境づくりに努めている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で共有を図り、実践につなげている。	「住み慣れた地域での生活を24時間・365日サポートします!」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成するとともに、管理者は朝礼時に職員に再確認を促すなどで共有を図っているが、掲示するまでには至っていない。 管理者や職員は利用者が地域の中で安心して暮らせるよう、一人ひとりに応じて訪問、通い、泊まりのサービスを組み合わせることで支援に努めている。	利用者に提供するサービス内容を再確認しながら仕事に取り組むことができるよう、理念を掲示するなどして全職員がいつでも確認ができるよう工夫することが望まれる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア団体との交流を深めている。また、地域のお祭り等に招待の声かけある場合は、できる限り参加をするようにしている。	利用者と職員は散歩や浴道の草取りなどで地域の住民とあいさつを交わしているほか、地域で開催される「鮎の里祭り」や「芋煮会」に参加するなど、事業所自体が地域の一員として交流している。 管理者は事業所で開催した夏祭りに、「よさこいソーラン」や「ダンス」のボランティアをお願いし、利用者と楽しく交流ができるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところ実施できていない。今後はそういった機会を設けていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は利用者様ご家族もご参加くださるようになった。しかしながら、評価への取り組みまでにはまだたどり着いていない。	家族等や地域包括支援センター職員が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 管理者は事業所の活動報告や利用者の状況報告などを行うとともに、情報交換をしている。 会議において、県内の地域密着型サービス合同開催の「認知症研修会」への参加を呼びかけたところ、家族等が参加することができたほか、認知症高齢者の理解を深めてもらうことができた。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者数などをインターネットで、市町村のホームページに掲載していただくことができたようになった。	管理者は月1回市の担当者へ空室状況を報告するとともに、利用者の権利擁護についてや家族等からの苦情への対応方法などの相談を持ちかけてアドバイスを得たり、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、理解しながらケアを行っている。夜間帯において徘徊の危険性がない限りは玄関の施錠を極力しないようにしている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを整備するとともに、月1回のミーティングにおいて勉強会を行い、職員で共有を図りながら身体拘束をしないケアの実践に努めている。職員は玄関と居室は施錠をせず、利用者が自由に活動ができるよう安全に配慮しながら支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については勉強会を通して理解に努め、事業所内でも防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、現在対象者がいない状態である。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、理解、納得を得られるよう十分に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様が来てくださるようになったので、意見、要望などをすぐに反映できるようになった。	利用者には「生活支援アンケート」を実施し、日頃の生活での困りごとなどを把握するよう努めている。 家族等からは送迎時や自宅でのモニタリングの際などに意見や要望を聞いている。 管理者は把握した要望の1つである、「買い物に困っている」との声に応え、月1回事業所に地域の商店に来訪してもらうことにより、食品や日用品などが購入できるように支援し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回小規模多機能ホームにて会議を行い、提案や意見を聞くようにしている。	管理者は職員がいつでも気軽に意見や提案ができるような雰囲気づくりに努めている。 月1回ミーティングを開催し、職員から意見を聞く機会を設けているほか、管理者は法人全体で開催する会議に参加し、出された職員の意見や要望を提案し、運営に反映できるように話し合っている。 管理者は職員からの要望を受け、職員同士の交流が図れるように退勤後に会食する機会を設けるなど、職員の働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月、9月に目標シートを活用し、面接を行い、環境、条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に不定期で数回行われる全体の勉強会等に参加できる機会を設け、参加をお願いし、教育の一環としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在のところそういった機会がない。今後はそういった機会を設けていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意思が確認できる場合は要望等を聞きながら、関係を作るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からは、利用開始時に、要望、不安をお聞きしながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状は、まず受け入れをし、基本の通いサービスを使いながら他のサービスの必要性を判断している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者全員は難しいが、ともに暮らす関係を築くことができている方もいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の介護力を失わせないように、できるだけ説明をしながら、支えていくように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敷居は高くせず、気軽に近所の方々や親族が来れるように心がけている。	職員は契約時に利用者や家族等から話を聞いて生活歴を把握するとともに、これまでの馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。 利用者は親戚の結婚式や葬儀に出席するために職員の支援を受け、親しい人々と交流を図っているほか、家族等と馴染みの地域へ外食や買い物に出かけている。 事業所は日頃から自由に利用者の家族等や近隣住民、民生委員、区長の訪問を受け入れ、交流が図れるように場所の提供などに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置等については気を使いながら支援に努めている。また、昔からの知り合いの方についてはできるだけ同席にするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入盆などの際に、訪問したり、相談がある時には支援できるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンスにおいて、できるだけ本人本位に検討できるようにしている。	職員は利用者と家族等からアセスメントや月1回のカンファレンスシート、業務日誌の記録を基に利用者や家族等の望む暮らしを把握し、利用者や家族等の意向にそえるよう支援をしている。 利用者の言葉にならない思いなどは、表情や態度から気付いたことを日々の業務日誌に記録し、ミーティング時に全職員で共有を図り、利用者本位のサービス提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録等を活用し、職員内で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシート等で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画についてはケアカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族等の意向をもとにカンファレンスを開催し、職員で話し合いながら介護計画書を作成している。 利用者や家族等には介護計画書を説明し、同意を得ながら毎月モニタリングを実施している。 3ヶ月に1回は見直しを検討し、状態に変化が生じた場合には現状に即した内容に見直しをしながら支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートを使い、1週間の動きを把握できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ柔軟に行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在のところ実施できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初回に、できるだけかかりつけ医を聞くようにし、適切な医療を受けられるように支援している。	これまでのかかりつけ医を変更することなく、必要に応じた医療機関で受診ができるよう支援している。 家族等と受診する場合は、医師に日頃の様子を適切に情報提供ができるよう、看護師が利用者の状況を家族等に報告するとともに、家族等からは主治医の指示や薬の情報を受けながら支援をしている。 家族等との受診が困難な場合は職員が通院介助をし、受診結果は連絡帳や電話で家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	総合記録シート、または業務日誌において、情報を共有できるようにしている。また、受診が必要な方に関しては、看護師の助言の下適切に行うようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当法人の医療機関においては、インターネットを介して情報交換や相談ができるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状、取り組めていない。	管理者は利用者や家族等には重度化や終末期に向けた事業所の方針を契約時に口頭で伝え、情報の共有を図っている。 前回の外部評価の結果を受け、管理者は法人統括部へ相談したが、単独の事業所のみが独自の方針を打ち出しては困るとの回答であったため、「対応方針を明文化し、同意を得ることが望まれる」との期待したい内容に関しては実現するまでには至っていない。	重度化や終末期に利用者や家族等が安心して納得が得られたサービスを受けることができるよう、法人全体の共通の対応方針を明文化するとともに、利用者や家族等に説明して書面で同意を得ておくことが望まれる。 管理者は外部評価を機会に、法人統括部に話し合いを提案し、1日も早く法人内の方針を明らかにできるように働きかけることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて実施し、対応できるよう心がけている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の食料品会社から、非常用の食糧の提供をうけている。災害については、訓練を実施している。地域との協力体制については、まだ築けていないと感じる。	夜間の火災を想定した避難訓練を実施しているが、火災以外の想定及び年2回以上の訓練や地域住民の参加を得るまでには至っていない。 訓練結果は記録に残しているが、次回に向けた反省点を話し合うまでには至っていない。 災害の発生に備えて食料品や米を備えているほか、近隣には地域住民が常時共同利用ができる井戸がある。	職員だけの避難誘導には限界があるので、運営推進会議等で働きかけ、年2回以上の火災以外を想定した訓練も含め、地域住民の参加を得ながら避難訓練を実施することが望まれる。 訓練で明らかになった課題を職員で話し合っって記録に残すとともに、次回の訓練に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護方針にのっとり、プライバシーの確保に努めている。声かけも、人格を尊重しながら対応を心がけている。	職員は利用者の人格を尊重する対応に心がけ、入浴や排泄時にはさりげなく声をかけながら支援をしている。 管理者は法人合同研修会に参加して社内規定であるプライバシーマークの取得を目指し、事業所内では個人情報取り扱いに関するマニュアルを活用した勉強会を年1回開催している。 個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかる小部屋に保管し、責任ある取扱いと管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく希望を聞きながら、支援できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者全員ではないが、希望に沿って支援できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床介助するときにはできる方には衣類の好みをお聞きしながら介助するようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好一覧を参考に、食事を提供している。準備や片付けはできる限り一緒にやっていたくようにしている。	利用者は食事の準備や後片付け、おやつ作りに参加するなど、できることは役割を持って取り組んでおり、職員と一緒に楽しく会話を交わしながら同じ献立の食事を摂っている。 職員は月1回のバイキングや行事食の提供、レストランでの外食など、食事が楽しみなものとなるよう工夫するとともに、ベランダではサンマや芋をバーベキューコンロで焼いて提供するなど、季節を感じてもらえるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録シートにて確認し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。できる方には自分で行っていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	立位が取れる方にはトイレにて排泄していただくようにしている。日中は殆どの方がトイレにて排泄を行ってくださっている。また、排泄も記録に残すようにし、パターンの把握に努めている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりのタイミングを計りながらトイレで自立した排泄ができるよう声かけや介助に努めている。 職員のトイレ誘導により排泄の自立が促され、おむつを使用しないで生活ができるように配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールとまではいかないが、数名の利用者に対しては、病院と連携を取りながら、工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状では、ホームのお風呂の構造上、時間帯を決めざるを得ない状況であるが、解消していきたい。	職員は利用者の体調や希望に応じ、通所サービス利用時には毎日午前中の送迎後から午後4時の帰宅時まで入浴の支援をしているほか、泊まりのサービス利用時には1日おきに通所サービスと同じ時間帯で入浴ができるように努めている。 入浴剤を使用したり、利用者と職員が一緒に歌を歌うなど、寛いで入浴ができるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベットを各居室に用意し、疲れたら直ぐに休めるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表にて服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月間予定表を活かし、その日その日違ったことに挑戦できるように心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	数名の方々（家族が同居されている方）については希望に添えるよう家族とともに援助をしている。全員にはまだ実施できていない。	利用者は日常的に庭や2階の広いバルコニーで外気浴をしたり、自宅周辺を含めた近隣を散歩したりしているほか、職員はドライブを兼ねて花見や袋田の滝などの周辺観光地へ出かけ、活動的に暮らせるよう支援をしている。 利用者は家族等の支援を受けながら、外食や墓参りに出かけるなど、一人ひとりの希望にそった外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出イベント等の際には、自分で管理できる方については自分で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については実施している。手紙については実施していない状況である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激臭、温度については配慮をしながら工夫をするようにしている。	居間兼食堂は2部屋に分かれているほか、カウンターテーブルや数ヶ所にソファが配置しており、利用者が思い思いの場所で寛ぐことができるように配慮している。 廊下や玄関、居間の壁面には行事の写真や利用者が制作したちぎり絵、折り紙作品、日本人形、吊るし雛、生花などが飾られており、季節感を取り入れた居心地のよい空間となっている。 居間の壁面には時計やカレンダーを飾るほか、加湿器を使用して湿度の管理に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを用意して、安らげるような場所を作るように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毛布や枕等は本人の利用していたものを活かせるように支援している。また、申し出に応じて、他の備品にも対応するようにしている（尿器など）	利用者は泊まりの部屋に日常使い慣れた毛布や座布団のほか、目覚まし時計や鏡などを持ち込み、自宅と同じように居心地よく過ごせる居室づくりをしている。 事業所は一般の住宅を改装しており、和室と洋室を備え、間取りも様々なため、居室は自宅で過ごしているような落ち着いた場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにわかりやすく標識を置いたり、部屋の前に番号のついた札をつけたりし、自立した生活が送れるように支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの ○ 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと ○ 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが ○ 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが ○ 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 フロイデ総合在宅サポートセンター山方

作成日 平成26年11月14日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	施設運営（避難訓練等）において、地域との関りをまだ作れていない	施設運営において地域、家族の参加ができるような仕組みを作る	運営推進会議等において呼びかけをする	1年
2	1	理念の共有と実践が、目に見える形になっていない	施設内に掲示するなどして、いつでも職員が理念を確認し、理念の下にサービスを行うことができるようにする	施設内に、掲示をする	1ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。